令和６年　１１　月　２９　日

令和６年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立緑が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和６年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

令和6年4月18日（木）

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語，数学，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①　国語　　６４　人

②　算数　　６４　人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており，実施教科が国語，算数の２教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

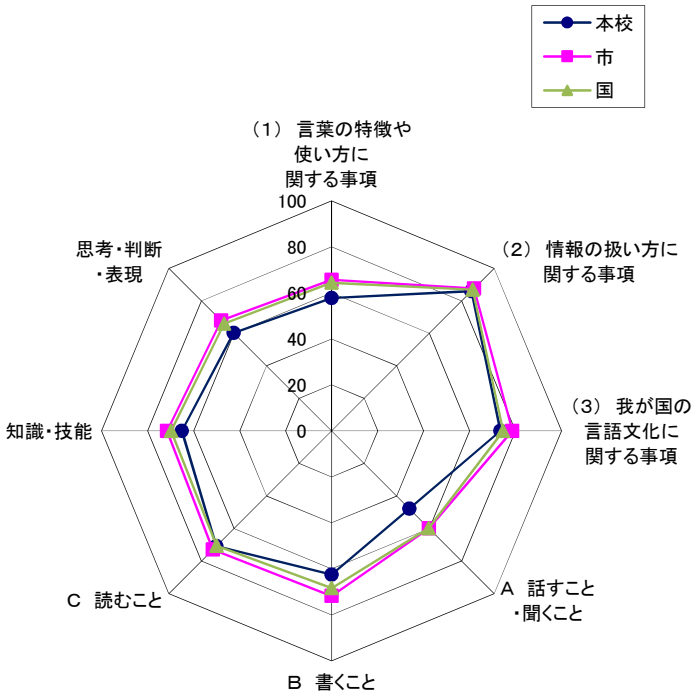
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立緑が丘小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	（1） 言葉の特徴や使い方に関する事項	57.8	65.7	64.4
	（2） 情報の扱い方に関する事項	85.9	87.6	86.9
	（3） 我が国の言語文化に関する事項	73.4	78.6	74.6
	A 話すこと･聞くこと	47.9	59.9	59.8
	B 書くこと	62.5	71.8	68.4
	C 読むこと	70.8	72.9	70.7
観点	知識･技能	65.1	71.5	69.8
	思考･判断･表現	60.2	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

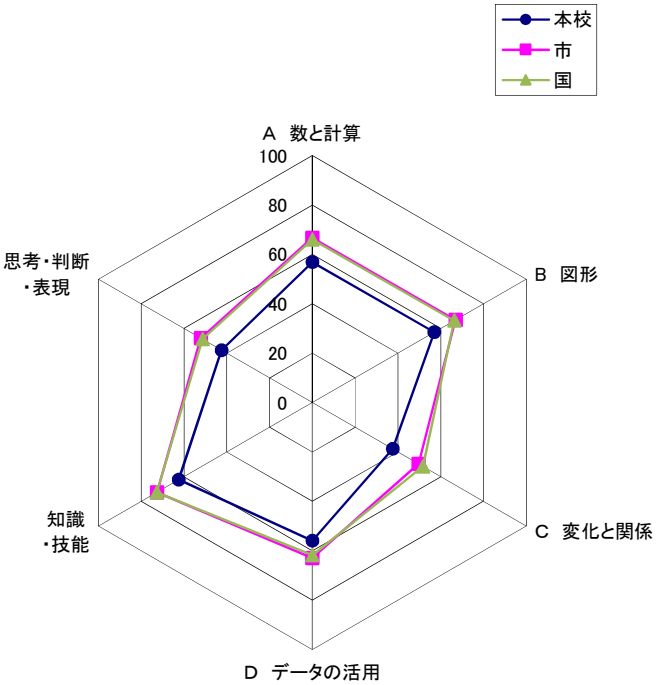
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
（1）言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，57.8%で，市の平均を7.9ポイント下回った。 ○話し言葉と書き言葉との違いに気付くことはできている。 ●漢字を文の中で正しく使うことや文の中の主語と述語との関係を捉えることに課題が見られる。	･漢字の読み書きについては，引き続き，漢字スキルや1人1台端末での課題を活用し，繰り返し学習を行った上で，既習した漢字を日頃から使えるよう指導を継続していく。 ･文の中での語句の役割や，語句相互の関係に気を付けて，文がどのように組み立てられているかを理解させるとともに，文の根幹である主語と述語について意識しながら読んだり書いたりするよう指導していく。
（2）情報の扱い方に関する事項	平均正答率は37.5%で，市の平均を12.1ポイント下回った。 ○道のりが等しい場合の速さについて，時間を基に比較を行い，言葉や数を用い手文章で説明することができる。 ●一定の速さを基に，道のりを時間を求める問題に課題が見られる。	･音声言語だけでは聞き手が理解しにくかったり，誤解を招きそうだったりする場合などに，資料を使いながら話すことや聞き手の興味関心や情報量などを予想しどのような資料を用意すればよいかを考える場面を設定する。実際に話す場面では，聞き手の状況に応じた表現を工夫できるようにする。資料を活用するなどして，自分の考えが伝わるように表現を工夫する指導を行う。
（3）我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，73.4%，市の平均を5.2ポイント下回った。 ●日常的に読書に親しみ，読書が，自分の考えを広げることに役立つことに気付くことに課題が見られる。	･読書活動を推進し，物語を読む経験をより多く積ませる。 ･夏休みの家読カードの活用の他に，国語の学習での並行読書を行ったり，読書紹介カードやビブリオバトルなどおすすめの本を紹介したりする活動を授業の中でも取り入れ，楽しんで読書を進められるようにする。 ･おすすめの本の中から好きな個所を選んで，書き出したり，好きな理由を伝えたりする活動を進める。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は，47.9%で，市の平均を12ポイント下回った。 ●目的や意図に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝え合う内容を検討することに課題がある。 ●資料を活用するなどして，自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題がある。	･話合い活動では，話し手の目的や意図，聞き手の求めていることに応じて伝え合う内容を検討する。今後も，ペアやグループ活動を積極的に行い，目的に沿った話し方の指導を継続的に行うようにする。 ･聞き手の状況に応じた表現を工夫するために，やり取りのモデルなどを活用して，気を付けるとよいことを確認しながら，話し方･聞き方の指導を行っていく。
B 書くこと	平均正答率は，62.5%で市の平均より9.3ポイント下回った。 ●目的や意図に応じて，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にすることに課題がある。 ●目的や意図に応じて，事実と感想，意見とを区別して書くなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに引き続き課題が見られる。	･事実を客観的に書くとともに，その事実と感想や意見との関係を十分捉えて書けるようにする。伝えたいことを明確にし，客観的な事実を取り上げることで考えをより深めていくことができるようにする。また，内容に注目して，文章全体に一貫性があるかを確かめたり，文末表現に注目して，事実と考えを適切に区別しているか，事実と考えを混同して書いていないかを確かめたりする場面を設定する。
C 読むこと	平均正答率は，70.8%で，市の平均を2.1ポイント下回った。 ○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりすることはできている。 ●登場人物や相互の関係や心情などについて，描写を基に捉えることに課題が見られる。	･登場人物の行動や会話，様子などを表している複数の叙述を結び付け，それらを基に性格や考え方などを総合して判断できるように指導する。 ･物語の全体像を具体的に想像するため，物語の内容面だけでなく，表現面にも着目して読めるようにする。

宇都宮市立緑が丘小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度 本校	本年度 市	本年度 国
領域	A 数と計算	56.8	66.7	66.0
	B 図形	57.0	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	37.5	49.6	51.7
	D データの活用	55.9	62.9	61.8
観点	知識・技能	62.5	72.6	72.8
	思考・判断・表現	42.4	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は56.8%で，市の平均を9.9ポイント下回った。 ○数量の関係を，□を用いた式に表すことができる。 ●割る数が小数のわり算の問題に課題が見られる。 ●計算に関して成り立つ性質を活用して，計算の仕方を考察し，求め方と答えを式や言葉を用いて記述することに課題が見られる。	・日常生活で活用する場面と関連付けて，基本的な計算能力を形成していくために，習熟度別学習を生かして，個に応じた指導の充実を図る。 ・基本的な四則計算の定着に向けた練習を継続する。 ・文章を読み取ったり，計算の工夫について説明したりできるように，工夫の良さについて復習するとともに，他者へ分かりやすく説明し表現する場面を意図的に設定する。
B 図形	平均正答率は，57.0%で，市の平均を9.9ポイント下回った。 ●直径の長さ，円周の長さ，円周率の関係についての理解に課題が見られる。 ●角柱の底面や側面に着目し，五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて説明する問題に課題が見られる。	・解答をする際に，自分の考えを文章で表現できるよう，ノートに自分の考えを書く場面を授業の中で多く取り入れる。 ・円柱の立体模型から展開図を作成する活動を行い，底面と側面の関係を体感的に捉えられるようにする。
C 変化と関係	平均正答率は37.5%で，市の平均を12.1ポイント下回った。 ○道のりが等しい場合の速さについて，時間を基に比較を行い，言葉や数を用い手文章で説明することができる。 ●一定の速さを基に，道のりを時間を求める問題に課題が見られる。	・日常の事象に即して考えられるように，問題場面を工夫し，実感を伴いながら理解を深められるようにする。
D データの活用	平均正答率は，55.9%，市の平均を7.0ポイント下回った。 ○折れ線グラフから必要な数値を正しく読み取り，言葉と数を用いて文章で説明することができている。 ●表を読み取り，必要なデータを取り出して分類整理することに関して課題が見られる。	・基本的な表の読み取り方を再度確認する。 ・目的に応じて必要なデータを収集し分類整理したり，表やグラフに表したりすることで，データの特徴や傾向に着目して考えられるように指導する。

宇都宮市立緑が丘小学校 第６学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問では，児童の肯定割合が97.2%で，全国平均を7.3ポイント上回る。これは，児童が教職員と関わる中で，自分の存在を価値あるものとして受け止めていることの表れであり，自己有用感が高いことを示している。今後も「話を聞く」「話しかける」「ほめる」等，傾聴や賞賛の意識を大切にしながら，児童が自分に自信をもって生き生きと生活できるよう指導に当たっていきたい。
○「5年生までの学習の中でPC，タブレットを活用しながら友達と協力して学習を進めることができる」という質問では95.8%の児童が肯定的回答を示し，全国平均を7.7ポイント上回る。これは，各教科や特別活動の時間において，児童が自主的に活用する時間を確保したことが理由と考えられる。今後も，児童の学習の習熟や調べ学習だけでなく，自分の考えをまとめたり発表しあったりするうえで効果的に活用できるように指導していきたい。
○「英語の授業の内容はよく分かりますか」の質問で肯定的回答は88.9%で，全国平均を10.6ポイント上回る。これは数年間同じALTと継続して授業をしたり，学習目標に対し書く・話す・交流するなど様々な方法で習得を目指したりした結果と考えられる。今後も，様々な活動を通し，主体的に学習に取り組む態度を育て，習得を図りたい。
●「普段１日当たりどれくらいの時間テレビゲームをしますか」という質問では，51.44%の児童が3時間以上と答えており，全国平均を21.1%上回る。これはゲームが生活の中で大きな割合を占めていることを示している。今後，ゲームの時間を減らすにはゲーム以外の時間を増やす必要がある。そのためには，学級活動等で，今の実態をもとに自分の考えをまとめ，今後の自分の生活について話し合うことが大切である。また，児童がゲームを行う時間や場所等について家庭内で設定し，児童が納得した上でけじめある生活ができるよう，保護者への啓発もしていきたい。
●「5年生までに受けた授業で，自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」という質問では，肯定的回答は62.5%で，全国平均を5.1ポイント下回る。これは，話の組み立てや説得力のある伝え方について十分理解が深まっていないことを示している。今後は，発表の機会を意図的に設定し，伝え方の例を示したうえで自分なりの考えが発表できるように指導をしていきたい。
●「算数の勉強は好きですか」の質問で肯定的回答は51.4%で，全国平均を9.6ポイント，「算数の授業の内容はよく分かりますか」の質問で肯定的回答は72.2%で，全国平均を9.9ポイント下回る。基礎基本が定着していない児童がみられることから，今後はドリル等を一律に行うのではなく，自分で目標をもって必要な学習を考えさせ取り組むようにし，一人一人が「できた」「分かった」喜びや向上心を味わえるような方法を進めていく。
●「算数の問題の解き方が分からないときは，あきらめずにいろいろな方法を考えますか」の質問で肯定的回答は72.2%で，全国平均を11.1ポイント下回る。算数の授業以外でも様々な考えのよさを認めることで意欲を高めたり，複数の考えから問題に応じて適切な考えを選ばせたりすることで，児童が思考を広げていくことができるようにしたい。

宇都宮市立緑が丘小学校（第６学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎基本を定着させるための取組	・「宇都宮モデル」を活用し，授業の中で「めあて・まとめ・ふりかえり」を行い，授業の焦点化を図りながら，（はっきり！じっくり！すっきり！）における指導を行っている。	・課題の解決に向けて自分で考え，自分が解決することができている児童は80.5%だった。 ・自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の筋立てなどを工夫して表現したりしている児童は62.5%だった。
・知識・技能を活用する力を育成するための取組	・他者との交流や自分自身の問い直し，目的に応じた1人１台端末の活用など，児童が多様な方法を選択し，組み合わせながら，粘り強く主体的に課題解決に取り組むことができるような授業改善を行っている。	・１人１台端末を活用することで，友達と考えを共有したり，比較したりしやすくなったと回答した児童は，90.2%だった。また，協力しながら学習を進めることができると回答した児童は95.8%だった。 ・１人１台端末を活用することで，自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる児童は82%だった。
・学ぶ意欲をもち続けるための取組	・特別活動の授業研究の充実を通して，安心して自分の考えを表出し，対話的に学べる学習集団づくりを行っている。	・友達や周りの人の考えを大切にして，お互いに協力しながら課題を解決している児童は93%だった。 ・学級会で話し合い，互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている児童は90.3%だった。 ・話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができている児童は86.1%だった。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・教科に関する調査から，全国や県の平均よりも全体的に低い傾向が見られ，特に算数への苦手意識が高い。 ・自分の考えを書いたり話したりすることに苦手意識があり，正答率も低い。	課題の目的や意図を，正しくと捉え，粘り強く取り組む。	目的や意図を明確にして考えを伝え合うことのよさが実感できる授業を行う。